

はしがき

生化学・分子生物学の最新の情報は日常的にあらゆるメディアを通して紹介され、生命現象を理解するためだけでなく、癌や難病の実体を解明するうえでも、その学問的な役割に関心が高まっている。いまや高等生物から微生物、ウイルスに至るまで生物のもつ化学反応が、有用な研究手段として多くの研究分野で応用されるようになってきている。特に医歯薬系の学生にとっては、これらの情報を単に知識の断片として記憶するだけでは不十分であり、生体内の生命現象や代謝過程がいかに精巧に調節されているかを理解し、その必然性と巧妙さ不可思議さに感動する感受性を養うことが大切である。

生化学・分子生物学で学ぶ対象は分子レベルであり、分子の構造とそれらどうしの作用機構を多次元的にイメージできなければ生命現象を真に理解することは難しい。そこで本書では記載的な文章をできるだけ簡略化してビジュアルなイラストを多く盛り込み、実験データなども加えて理解を深められるようにした。近年明らかになってきた細胞や組織における種々の生命現象の仕組みについて、分子の世界でイメージをふくらませ、楽しみながら学んでいただければ幸いである。

本書の出版は、日本医事新報社の編集スタッフの助言、イラスト作成などのサポートがなければ完成できなかつたであろう。スタッフの本書完成への情熱と忍耐に敬意を表したい。また、多大な協力を戴いた前野正夫助教授、イラスト作成を手伝つて戴いた細谷史規博士に感謝いたします。

1997年5月

著者ら